八尾市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会の開催経過（令和5年度）

(1) 会議日時等

開催日時：令和6年2月21日（水）10時から

開催場所：八尾市文化会館プリズムホール 4階 会議室1

(2) 案 件

1. 会長の選出について
2. 第4次八尾市地域福祉計画の推進及び取組み進捗状況及び前期振り返り等について【資料1-1～3】
3. 第4次八尾市地域福祉計画の中間見直しについて【資料2】

(3) 開催結果

1. 会長の選出について

八尾市社会福祉審議会条例第7条第2項に基づき、委員等の互選により専門分科会長として松端委員を選出。

2. 第4次八尾市地域福祉計画の推進及び取組み進捗状況及び前期振り返り等について【資料1-1～3】

令和3年3月の第4次八尾市地域福祉計画策定以降の取組みの進捗状況及び前期の振り返りについて説明を行い、各委員より地域や各団体にて行っていることも分野を含めた取組みを中心として多くのご意見をいただき、会長より以下のとおり総括いただいた。

○会長総括

地域福祉計画の進捗状況及び前期の振り返りについては、課題の把握や中間見直しに向けての取組みの整理を行うことができている。

分科会の資料についても、昨年度の委員意見も踏まえて分かりやすくまとめられており評価できる。分科会委員の意見を踏まえながら「おせっかい 日本一」に向けて、引き続き取組みを進めていただければ良いと思う。

具体的な特記事項は以下の通り。

- ① 重層的支援体制整備事業のPRとしてコミュニティ通貨「まちのコイン」を活用し、地域共生社会の啓発チラシを受け取った人や、イベント出展ブースにおいて地域共生社会に関するクイズコーナーに参加した人へコインの付与等を行う取組みを行っており、継続した事業PRと「まちのコイン」の活用を行っていただきたい。

- ② 高齢・障がい・こども分野を中心とした社会福祉法人や施設からなる社会福祉施設連絡会において、災害時の連携や困窮課題に対するフードバンクでの連携等を行っており、同連絡会を協働の基盤（プラットホーム）として引き続き行政と連携を強化していく必要がある。
- ③ 地域コミュニティの希薄化が課題となる中で、障がい者も住みやすい地域になってほしい。とりわけ災害時の対応において、避難所に行くまでのサポートについても考える必要がある。
全体としては、地区防災計画の策定にあわせ、同意者リストや個別避難計画を活用した避難時の声掛けや災害に備えた準備が進むよう取り組んでいただきたい。
- ④ 駅から直結の大型マンションにお住まいの方の町会加入率が特に低く、地域との関わりも少ないことが明らかとなっている現状を踏まえ、他市事例等も参考に集合住宅にお住まいの方が地域に馴染んでいけるようなコミュニティ作りの仕掛けが必要である。
なお、地域には人とつながりたい方ばかりでなく、距離を置きたい方もおられ、そういった方々も有事の際にはつながれる状態であることが大切である。
- ⑤ 地域では、こども会の休会や退会が増える中で、地域ニーズにあった連合こども会を作ったり、学校に出向いての学校支援ボランティア活動やこども食堂といったこども分野の取組みを多く行っている。その中で、こどもと顔見知りになり、気軽に声を掛けてもらう関係性づくりを行っているが、今後、さらにこども達の居場所づくりや学校との連携が求められ、民生委員・児童委員においても学校側のニーズ（下校時の見送りや挨拶運動といった人手が足りない部分のサポート）を担うことで、災害時や緊急時にもすぐに学校と連携が取れるように備えている。また、地域福祉の視点からこども分野のことを考える（地域でこどもを育てる）ことが求められており、こどもが学校の先生以外の大人と触れ、しんどい時にSOSを出せる関係性を意図的に作り出していく必要がある。
- ⑥ デジタルサポーター養成講座は、キャッシュレス・ペーパーレス化に伴い世代間の情報格差が広がりを見せる中で非常に有効な取組みであるので、今後も引き続き取組みを推進していただきたい。
- ⑦ 高齢者を対象とした詐欺被害等の様々な周知啓発は、高齢者が集まる場だけでなく、外に出歩かずに地域から孤立している方に対してのアプローチも必要である。
- ⑧ 認知症高齢者や様々な課題を持つ方が増加する中、そういった方々も生活に溶け込む社会づくりが必要である。地域には様々な方が生活しており、中には干渉されたくない方もいる。そういった方々が心地良い距離感で、有事の際には助け合える関係性づくりがこれからの地域社会に求められる。

3. 第4次八尾市地域福祉計画の中間見直しについて【資料2】

令和6年度の見直しスケジュール及びアンケート調査について説明を行い、各委員よりご意見をいただき、会長より以下のとおり総括いただいた。

○会長総括

令和6年度中に「計画策定にかかる委託事業者の選定」、「各種アンケートの実施」、「計画見直し」等の実施があり、かなりタイトなスケジュールになろうかと思うが、「おせっかい 日本一」に向けて引き続き取組みを進めていく中で、分科会での意見や新型コロナウイルスの感染拡大による生活状況や地域との関わりの変化等についてアンケート結果等を適切に把握し、計画へ反映いただき、行政だけでなく市民にとっても分かりやすい計画としていただきたい。

また、こども分野の内容についても適切に地域福祉の視点で計画に盛り込んでいただきたい。